



## 今回は、昨年度行われた美濃加茂市とオーストラリア・ダボ市との交流事業について報告します。

◇ 2018年夏、関高生3名が、美濃加茂市の国際交流事業に参加しました！

**日 程:** 平成30年7月27日(金) ~ 8月8日(水) ※ダボ市内ではホームステイ  
**主 催:** 美濃加茂国際交流協会  
**目 的:** 美濃加茂市の姉妹都市オーストラリア・ダボ市へ中・高校生を友好親善の使節として派遣し、青少年との交流やホームステイによる生活体験などを通じて視野を広め、国際性豊かな人づくりをめざす。

■約2週間のオーストラリア生活の中で私が1番印象に残ったのは、3日間の学校体験です。私は Dubbo college senior campus へ行きました。

学校生活の様子は、日本と大きく異なる点が多くありました。一番の特徴は TAFE です。TAFE とは州立の職業訓練専門学校のことで、美容コース、看護コース、建設コースなど様々なコースに別れており、自分の将来の職業に合ったものを選ぶことができます。卒業後に各職場の即戦力となれるため、高校生でも行っている人は多いようでした。

私が学校体験を通して嬉しかったことは、たくさんの方が私と積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれたことです。3日間を通してたくさんの方と関わる機会がありましたが、私が日本人だとわかると、たくさんの方が「こんにちは」「ありがとう」などの自分の知っている日本語を話してくれました。生徒の中には日本語の授業を受けている人もいますが、受けていない人もそのようにコミュニケーションをとってくれました。

日本は世界的にみれば小さな島国です。それなのに遠く離れた国の人たちが日本の文化や言語に興味や知識を持っていてくれることに感動するとともに、日本人として自分の国に誇りをもてた瞬間でした。日々生活するなかで、自分がこのグローバル化が進む世界で暮らし、国際社会の一員である意識をもてる人は少ないと思います。しかし私はこの3日間でそれらを実際に感じることができました。それは、私にとってとても貴重で価値のあるものになりました。

最後に、私はこの研修で国際交流について色々なことを考えることができました。私のように外国へ行って現地の人と交流をすることはもちろん国際交流だと言えます。しかし、それだけでなく、他国の情報を取り入れたり、他国の言語を学んだりすることも立派な国際交流だと思います。まずは自分が興味をもち、それに対して自分なりに積極的に取り組むことが大切なのです。私の体験談から言えることは、国際交流において最も大切なのは、現地の言葉をうまく使うことではなく、相手とコミュニケーションをとりたいという気持ちなのです。私もこの研修で得たものをこれからに活かして、私なりの国際交流を続け、もっと広い視野をもてるようになりたいと思います。

(立川真央)

■私はこの派遣事業に参加するにあたり、笑顔で積極的にコミュニケーションを図ること、たがいの文化の良さを伝えあい、今後につながる体験にすることの2点を目標にしました。正直英語は得意ではないし、初めての海外が旅行ではなくこの派遣というのは不安でいっぱいでした。しかし、オーストラリアでの体験はすべて私にとって忘れられない大切な思い出であり、素晴らしい経験となりました。

数多い体験の中でも特に、私が印象に残っていることはカウラの見学です。オーストラリアの東海岸に位置するカウラ市に、「カウラ日本人戦没者墓地」という場所があります。1944年8月5日、カウラの捕虜収容所に拘束されていた日本兵が集団脱走し231人が亡くなった事件があり、

その墓地となっています。このことはオーストリアに行くまで知らなかったことで、日本にいただけでは今後知ることもなかった事件です。日本とオーストリアが深く関係するこの事件のことを学べたことはひとつの大きな財産になり、また、日本で学ぶだけでなく実際に自分の目で捕虜収容所跡を見て話を聞いたことはとても価値のあることだと思います。

カウラ見学以外にも、学校に行ったり、ホストファミリーと出掛けたりとあげるとキリがないくらい本当にたくさんの体験をしました。オーストリアの人は日本のことが大好きな方が多く、日本の良いところをたくさん話してくれました。そういった話を聞くと改めて日本の良さに気づき、ただオーストリアを学ぶのではなく、オーストリアから日本を学ぶこともできた最高の派遣事業となりました。

ここで出会った友達は今後も長い付き合いをしたいし、今度はもっと英語力を向上させてから長い期間でまたオーストリアに行きたいと思います。

(加藤優奈)

■私は2週間にわたるオーストラリア研修で、旅行では経験できない現地の人々の生活や価値観を知り、歴史を学ぶことができました。

オーストラリアには、気候や生活リズム、価値観に食生活と、私たちの住む日本とは大きく違う点がたくさんあります。例えば、私のホストファミリーの家では、就寝時刻がとても早かったです。夜10時には、大人も子供も寝床に入ります。

また、オーストラリアは今、大干ばつにより水がとても貴重で、シャワーの時間が5分ほどとても短く、洗濯も週二回だけでした。実際にオーストラリアの生活を体験してみて、水の大切さ、雨の大切さを知り、日本に帰ってから雨が降るたびにオーストラリアのことを思い出します。私達は身近に水がたくさんありますが、それが他の国では当たり前ではないことを実感し、きれいな水がたくさん手に入ることに、感謝しなければならないと思いました。

私は、自分の英語力に自信がなく、2週間でどう過ごすか、上手くやれるかどうか心配でしたが、自分から話すことを常に心がけていたので、英語が多少間違っても、意思を汲み取ってもらえることができ、2週間で有意義に過ごすことができました。

しかし、今の語学力では十分に意思の疎通ができないので、英語の学習に積極的に取り組んでいきたいです。また、自分の経験値を増やすためにも、海外留学などをしてみたいと強く思うようになりました。

この年10月5日から14日までは私達がホームステイした先の子が、交換留学というかたちで、私達の家にホームステイしました。関高校の見学、BBQのほか、家族で高山や美濃市など、日本の文化を存分に体験できる場所に連れていってお祭りなどを体験してもらいました。とても喜んでくれて、今でも連絡を取り合っています。

(福富千陽)

